

刀から出た主な言葉

切羽つまる 反りが合わぬ
 もとの鞘におさまる
 伝家の宝刀 縞を削る戦い
 鰐ぜり合い 鞘当て
 焼を入れる 焼が甘かった
 焼が鈍った 懐剣 目貫通り
 地金が出る 土壇場
 おっとり刀 抜き差しならぬ
 抜いたら最後 切れ味がよい
 身から出た錆 抜き打ち
 快刀乱麻を断つ 真剣に取り組む
 真剣勝負 一刀のもとに
 単刀直入 一刀両断 両刀づかい
 大上段にふりかぶる
 太刀打ちできない
 横槍を入れる助太刀 両刃の剣



大・小 一腰の銘 (照重)

◇散歩のみどころ

JR西八王子駅から長房、横川界隈の凡そ5kmの行程。甲州街道分岐点を右へ、南浅川の東横川橋を渡り左へ。競馬場跡に建つ富士森高校を見ながら川沿いに横山橋を過ぎて旧京王線橋脚跡へ。さらに、旧東京陸軍幼年学校跡地だった長房団地を北へ、現在国指定の史跡公園、船田石器時代遺跡へと歩く。

さらに船田の子育地蔵尊、ついで様を拝し、八王子城落城で多くの死者を葬った洞生寺跡の供養塚へ。そして加藤鋳物師屋敷跡を通り、横川の日吉神社へ。拝礼の後、丘陵地を東へ下り、下原刀匠照重の山本家を見て、下原公園に到着。

昼食後、千本木会館がある神明社、乙骨屋敷跡へ。城山川沿いから北浅川合流地点に点在するメタセコイヤ化石を見学。さらに南下しながら弁天池公園、横川榎子宅からぽっくり様の龍泉寺、吉祥院へ。西八王子に戻り、解散。

①甲州街道分岐道標

並木町（桑志高校近く）

八王子の古地図を見ると、東の新町付近と西の並木町付近が枡形に成り一里塚が建っている事がわかる。並木町は東の大和田橋付近（新町）から甲州街道沿いの横山町、八日市町、八幡町、追分から千人町へと続く街並みの西端を画する出入口で、江戸期には宿場町の境をなして「御料傍示杭」があり、西が散田村とされており町と村の境界地であった。

江戸時代は宿場街を西に進んできた道の正面に一里塚と地蔵堂があり、その地蔵堂の脇から小道が通じていたといわれる。一里塚には右、高尾山、左、真覚寺と刻まれ、現在の一里塚は昭和五十六年（一九八一）十一月に再建され北側に移されている。



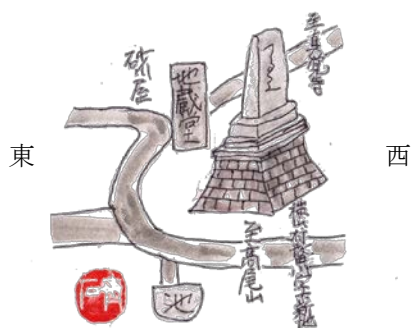
昭和二年新道建設時の甲州街道碑



甲州街道分岐道標

●千人町地蔵堂(廃堂)

千人町と並木町の境、千人同心峯尾佐治右衛門持、本尊地蔵菩薩(銅製)享保年間(一七一六〜三六)に再建されたが昭和二年(一九二七)多摩御陵の設置に伴う甲州街道の改修により廃堂となる。旧市内で地蔵堂といえば千人町の地蔵堂のことで、八王子宿(千人町を含めて)の西の出口にあたる所に有ったため地蔵堂の代名詞的な存在となっていた。江戸期には堂の少し西よりに一里塚があった。



当時の地蔵堂付近

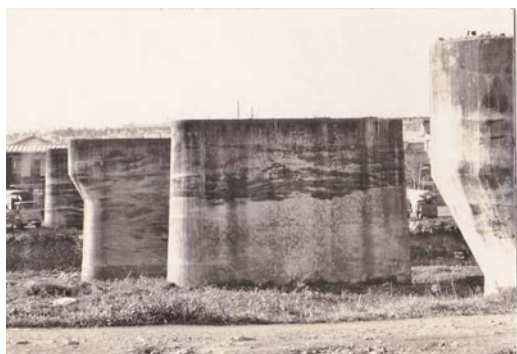
②旧京王線橋脚跡

長房町四五〇〜四五二

多摩御陵線は、昭和二年(一九二七)南多摩郡横山村(八王子市長房町)に大正天皇の多摩陵が造営され、参拝者が増えるとともに、その輸送のために昭和六年(一九三一)三月二十日に京王電気軌道(現、京王電鉄)が北野から御陵前までの六・四kmに敷設したものである。昭和二十年(一九四五)一月二十一日廃止され、八月二日の八王子空襲に伴い隣接する陸軍幼年学校とともに焼夷弾を受け焼失し、その歴史を閉じた。しかし甲州街道沿いに架けられていた橋脚等は昭和四十一年(一九六六)頃まで残されて撤去されたが、いまだに住宅地に二本の橋脚が残されている。



御陵線幻の貴賓車
500号車(1931~1944
(改番))



旧京王線橋脚跡



橋脚が二つ見える



京王御陵線山田町めじろ台東側
社紋入りの境界杭



京王御陵線山田町東側道路の畑

③東京陸軍幼年学校跡

(長房町都営住宅地)

都営長房団地のある地域一帯の台地には、かつて東京陸軍幼年学校があった。昭和十九年（一九四四）四月に開校し二十年（一九四五）八月二日の八王子大空襲による焼失閉校（のち廃校）までわずか一年四カ月の短い期間であったが、十三歳から十七歳の少年兵が教育を受けていた。

この大空襲で焼夷弾を受け建物は全焼。僅かに守衛所が焼け残ったが生徒（四十七期、四十八期、四十九期）と教官、及び職員の十一名が犠牲となった。

長房町の東照寺に当時の生徒、教員、職員を慰霊するための観音像が安置され毎年法要が行われている。



東京陸軍幼年学校跡地



東京陸軍幼年学校跡
の杉と梅の木

●陸軍幼年学校

(長房町都営住宅地)

明治五年(一八七二)に陸軍が士官学校と幼年学校を設立。中堅将校を養成する士官進学者のために設立した特別な中学校で、年少時から軍人の予備教育を行ってきた陸軍幼年学校。明治三十年(一八九七)東京に陸軍中央幼年学校と陸軍地方幼年学校が全寮制として開校し四十九年の歴史がある。

東京陸軍幼年学校は、昭和十八年(一九四三)七月から突貫工事がはじまり翌年三月には戸山台(東京、新宿区)から横山村(八王子市、長房町)に移転をしてきた。敷地は約三十二万²m(十万坪)、当時の生徒数は約八百五十名で、小学校を卒業した数え年、十三歳から十七歳の少年が教育を受けていた。彼らは「将校生徒」と呼ばれていた。



陸軍中央幼年学校



現在の陸軍幼年学校跡地

④船田石器遺跡 国

長房町(中船田公園)

この地域は、船田、向(むこう)と呼ばれていたもので、船田向石器時代住居跡という。南浅川の北側に面する河岸段丘の洪積地の一部で、今は住宅地となっているが以前は西から東に流れ南浅川に注ぐ小川があつて水田となっていたが、峰開戸遺跡の発掘がきっかけで地元の農民が住居跡らしき石塊を発見。

昭和二年(一九二七)四月に発掘し、縄文時代後期の住居跡であることがわかった。住居跡は堀之内式と呼ばれ東西約四・八m、南北四・九五mの円形で、石で敷きつめられ中央部に方形の炉跡とその中に土器があり、東南の隅に大型甕(かめ)(経三十cm高さ五十四cm)が発見され、翌昭和三年(一九二八)一月に国の指定史蹟となった。

現在には埋め戻され、遺跡記念碑が建っている。

●船田時代遺跡 国

遺跡面積は約二十万㎡に及ぶ。現在都営長房団地が建っているが、団地建設前の昭和四十三年（一九六八）と昭和四十六年（一九七二）及び建て替時の平成十三年（二〇〇一）の三次にわたり発掘調査が行われた。

結果、縄文時代から弥生、古墳、奈良、平安の各時代の住居跡をはじめ、方形周清墓と円墳（横穴式石室）や土器、土師器、須恵器、甕（かめ）、鍬（くわ）、鋤（すき）、鍬（やじり）などの多数の出土品や土抗が発見されている。

とりわけ古墳時代後期から古代にかけての住居跡約四百棟の大規模集落の跡が発見され、律令制下の武器の鉄鍬が多数発見されるなど考古学上注目される。現在は埋め戻され遺跡記念碑が建っている。



遺跡公園の船田遺跡



国指定 船田石器時代遺跡

●船田の子育地蔵尊

長房町の自由が丘団地へ行く手前に船田会館がある。館内には、新しく作られた安産子育地蔵尊が祀られている。以前は会館の西側にお堂があり、その中に安置されていた。

この子育地蔵尊は昔から有名で、安産のための腹帯を貸し出す制度があり、遠方からもお参りに来る女性が多かったという。しかし昭和二十年八月二日、八王子空襲でお堂諸共焼失した。現在は新しい地蔵尊に変わっている。



船田会館



安産子育て地藏尊碑



船田町会の子育て像

●馬頭観音とついで様

会館東側の覆屋のなかに文字塔の馬頭観世音、おついで地藏、それに供養塔が安置されている。また階段途中の東側には、自然石で二m近くある「馬頭観世音菩薩」と彫られた碑がある。

これは大正十年（一九二一）頃、現在の南浅川辺りの市営長房第一団地から都立富士森高校辺りに競馬場があり、その付近に馬頭観音や供養塔があったものを、道路拡張や区画整理の関係で昭和十五年この地に移転したものだといわれている。

中央のおついで地藏は、丸形座像で、お参りはついでの時で良い。因みに、元八王子町石神坂のおついで様は舟形立像である。

この他敷地内の西側には、船田天満宮、東にしょうぎ井戸、前庭の道路ぎわには船田邑講中の庚申塔、そして幼年学校にあった放鯉記念碑もまた戦後当地に移転したものである。



馬頭観世音菩薩碑



馬頭観音とついで地藏 供養塔
石仏の台石が道しるべになっている。
(向かって右側面) 左 元八王子道
(向かって左側面) 右 高尾山道

● 琴平・山王神社

祭神は大物主神、創建は不明。当初、中船田東北部に鎮座していた。明治の末期、現在の山王神社に合祀。金比羅宮は、香川県仲多度郡象頭山（琴平山）の中腹にある元国幣社。船人に尊崇の金比羅神を祀る。山王神社は、滋賀県大津市坂本の日吉（ひえ）神社の別称。最澄が大和国三宝山の大三輪神、すなわち大物主神を勧請し、中国の天台山国清寺の山王祠にならって神号を山王と奉り、比叡山の守護神としたのに始まるという。



庚申塔



琴平、山王神社本殿



琴平、山王神社

⑤ 洞生寺跡と供養塚

天正十八年（一五九〇）六月に起こった八王子城攻めの時、前田利家の軍勢が月夜峰の東側丘陵を占拠した時の旗塚や首塚跡があった。又その付近には明治初年に廃寺になった真言宗西蓮寺末の横川山洞生寺（洞照寺）があったといわれている。

現在はその付近に新しく不動明王を祀る小祠と讃誉牛秀上人と銘のある地藏尊が安置されている。八王子城が落ちた時、北条側の多くの家臣がここに葬られたことから供養のために建立されたといわれる。



不動明王



賛譽牛秀上人



洞生寺跡の供養塚

⑥横川の日吉神社

横川町五丁目九号

勧請 近江国一之宮日吉大社西本宮
祭神 大己貴命

(おこなむちのみこと)

創建 天正十九年(一五九二)

社地は東西三十八間(六九m)、
南北二十六間(四七m)・面積九百八
十八坪(三二七〇㎡)。

天正十九年近江国(滋賀県)の一之
宮日吉大社西本宮を勧請したと伝え
られる。

境内付近は天正三年(一五七五)
頃、北条氏照が八王子城築城のため
の石切場として用い、八王子城東方
の守護神として横川の氏神にしたと



賛譽牛秀上人石碑

伝えられる。

天正十八年(一五九〇)六月の八
王子城攻めの時、前田軍勢の兵火に
より焼失、明治七年(一八七四)八
月に再建され、大正三年(一九一四)
社殿を改修。その後も修復が繰り返
され昭和四十八年(一九七三)九月
社殿が再改修され今日に至っている。

境内には江戸末期から明治初期
に造られたと思われる台座に三猿の
ある珍しい庚申石祠がある。これは
石造物として、市内最古のものと考
えられている。

延宝三年(一六七五)の如意輪観
音像と水輪部の欠落している五輪塔、
天明七年(一七八七)の地藏と文政
元年(一八一八)の観音菩薩の四基
は、明治初年に廃庵になった唱入庵
(寮)という阿弥陀堂のもので、昭
和五十年(一九七五)三月、中央高
速道路に架かったため日吉神社境内
に移された。



庚申石祠
石造物では市内最古と考えられる
台座に三猿が彫られている



横川の日吉神社



左から五輪塔、如意輪地蔵、観音菩薩

●唱入庵と如意輪観音

唱入庵（阿弥陀堂）（明治初年廃庵）は、慶安三年（一六五〇）頃に建てられた花川（泉町）の浄土宗相即寺の末寺（庵）で、本寺は芝（東京、港区）の増上寺である。

観音像は、加藤鋳物師が本寺である芝増上寺の梵鐘を造り、延宝元年（一六七三）十一月二十四日に完成した。

⑦下原刀匠・山本一族

戦国期の永正年間（一五〇四～二一）大石氏の招きで、山本但馬周重が恩方の辺名に住み、鍛冶職を始めたとされている。二代目の周重が恩方の下原に移り、北条氏康から「康」の字をいただき「康重」と改名。その弟の長門周重が分家して横川下原に住み、氏照から「照」の字をいただき「照重」と改名。その後、照重の系統で廣重から、「武蔵太郎安國」が出る。直系ではないが「武蔵太郎安貞」が出て、元八王子の鍛冶屋敷で下原刀の最盛期を成した。その頃すでに一族は十家になっていた。

江戸では諸大名、旗本等の需要に応じた力作も多く下原の名は天下に知られた。しかし江戸中期以降になると太平の世となり、江戸鍛冶の充実により衰退するが下原刀は幕末まで続く武州唯一の刀工集団であった。横川には刀匠照重の石碑が残っている。



市史跡下原刀匠
照重鍛刀の地碑

●武州下原刀（鍛冶師）

下原鍛冶は、下恩方下原、横川町下原、元八王子町の鍛冶屋敷等に住み鍛刀に従事した「山本」姓を名乗る刀工の一族の総称である。室町時代末期から安土桃山、江戸時代を通じて、周重、康重、國重、外記利長、照重、照廣、正重、廣重、宗國、安國等の刀工を生み、代々下原鍛冶の伝統を受け継ぎ幕末まで続く武州唯一の刀工群である。製作された刀剣類を通称「下原刀」と呼び、古来より実用刀、武用刀といわれ、地鉄が剛く表面光が強いこと、そして慶長の頃の古刀期の大部分のものに「下原肌」といわれる渦巻き風の連続紋

が中央部に認められているのが特色とされている。



山本家脇の辻地藏尊



照重家代々の内墓

⑧横川下原公園

横川町五丁目七号

横川町西部にある、市指定の自然緑地保全区、面積七千六百四十六㎡。園内には貴重な櫟（けやき）の林を保存し雑木林の中は木道の散歩道が整備され、公園の北側は城山川と大沢川のせせらぎの音が聞こえる。

附近にはその昔、鋳物師「加藤一族」の鋳物工房があったという。

又、近くには下原鍛冶の刀匠「照重」の碑がある。

●加藤鋳物師

江戸時代に三多摩地方に基盤を置き、梵鐘の製作を中心として活躍した鋳物師が六家あったが、その中で加藤家の鋳造したものがほとんどであるといわれている。加藤家は瀧原（横川町）の通称「鍋屋敷」に戦国期から居住し、北条氏や徳川氏から除地を賜っている。徳川時代には

六郎兵衛、甚左衛門、重兵衛という人が出たが、この三人（加藤三家）は幕府から二十一畝三十二歩の除地を賜っていた。又朝廷の御鑄物師であつたとも伝えられる。

加藤家の造った梵鐘は寛永三年（一六二六）から嘉永五年（一八五二）に至るまで約二百三十年間に八十例あり、八王子市内をはじめ多摩地区に多く、神奈川や埼玉にまで及んでいる。加藤家の主な鑄造品は甚右衛門尉長重作の寛永三年（一六二六）大善寺の梵鐘、甚右衛門金吾尉吉重作の寛永十九年（一六四二）広園寺の梵鐘、市郎右衛門藤原吉重作の万治三年（一六六〇）真覚寺の梵鐘、加藤六郎次宋作の宝永二年（一七〇五）八王子神社の青銅額・甚右衛門白鎧作の安永五年（一七七六）相即寺の万目供養仏などが上げられる。

数々の名作を出した加藤家の工房跡は昭和四十年（一九六五）十一月、中央高速道路に架かったために

発掘調査が行われ、その結果多数の梵鐘の鑄型を始め、鍋などの日用品などが出土し当時の仕事内容がよく分かる。現在工房跡は中央高速道路の下になっている。



横川下原公園内



刀の光に見立てた日時計

⑨大楽寺の神明社

大楽寺町千本木

建立以来千本木の産土神とし氏の寄り処になっているが、勧請、創建の時期は不明。祭神は「石」で伊勢皇大神宮の遙拝所として建立されたものといわれる。

昭和六年（一九三一）に神明社は改築されたが、改築する前の社の棟札に弘化二年（一八四五）十二月三日と記載されている。村の伝承どうり梶原景時が千本目の杉を神明社境内に植えたという。弘化以前からの社で相当古い歴史を持つ事になる。祭神は伊勢皇大神宮を祀っているもので天照大神である。

かつて神明社境内で大正天皇の御大葬の提燈柱を立てた時、地下一mの所から石斧を発掘した事があった。又、近くの場所からは、縄文時代の物と思われる、土器と炊火跡を発見した記録も残っている。



大楽寺の明神社

●千本木の由来

鎌倉時代初期の建久年間（一一九〇～九九）に源頼朝の家臣であった梶原三平景時が、この地方を治める時、その所領の村落に杉と桜を植栽し、その最終の千本目の杉苗を神明社のある境内に植え付けたことにより、この地を「千本木」と呼ぶようになったといわれている。



横川五丁目にある庚申塔ほか

この杉が現存すれば元八王子三丁目の梶原杉（現在残根部のみ）と好対。しかし明治十二～三年（一八七九～八〇）頃売却。切り倒され、その根株も昭和六年（一九三一）一月に神明社再建の折に撤去された。

おっこつ

● 乙骨屋敷跡

大楽寺町（三村橋北側付近）

陣馬街道沿い大楽寺町の東端、三村橋の西南の一角に江戸時代に五千坪（一万六千五百㎡）の「乙骨太郎左衛門」の屋敷があった。

（現在中央高速道路が横切っている）

乙骨太郎左衛門は徳川家康の家臣であり、武士であると共に易による陰陽師でもあったという。戦国時代末期、五味という姓で武田信玄の家臣であったが、高遠城落城以後、信濃国（長野県）諏訪郡乙事村に隠居し、名主を勤めていた。

天正十年（一五八二）徳川家康の家臣となり、武人として数々の功績をあげると共に陰陽師として厚く信頼され、上意にて乙事の姓に改姓し、天正十八年（一五九〇）十二月家康にお目見えの時、武蔵國八王子大楽寺村に五千坪の屋敷を拝領し、「乙骨」の姓を賜わった。



乙骨太郎左衛門屋敷位置

その後、太郎左衛門は將軍の警護役の御徒（おかち）として江戸牛込の御徒町（おかちまち）に住み、八王子の大楽寺には従臣であった、清水市兵衛が地守として住み、以後代々耕作を続けていたという。

乙骨家の菩提寺は、四代まで西蓮寺にあったが、その後は小石川の寺に移っているといわれている。

初代太郎左衛門夫妻の墓は、文政七年（一八二四）甲斐国塩山の恵林寺内の、武田二十四将の墓の中に移されているという。

● 三村橋について

橋の位置は八王子市内の西、陣馬街道（佐野川往還又は案下道）交番があり近くを中央高速道が走る。郷土史を知る人には乙骨屋敷跡の南側というところが見当がつくかと思う。城山川が本流で大沢川と堀川が合流し北浅川に流れ込む。その昔、大雨があるとよく洪水をおこし、幅約十一mの橋が度々流失し、人々の往来を妨げていた。

きちんとした木橋は、大正初期、橋に接する下壱分方村、大楽寺村、横川村の三村の出資で造られた。その時に付けられた橋の名前が「三村橋」という。

その後、陣馬街道がダンプ街道と呼ばれ、昼夜大型トラックやダンプが走り、橋の痛みも激しくなり、昭和三十七年（一九六二）三月に鉄筋コンクリートの橋になった。十年後の四十七年（一九七二）には歩道橋が設置された。

●城山川と大沢川

城山川は、元八王子町三丁目西端の山間から始まり、御主殿の滝を通って東北に流れ、横川町北部で北浅川に注ぐ約七・七kmの川である。新編武蔵風土記稿には、別名山城川ともいわれると記されている。

途中元八王子町三丁目の林野庁実習室付近を水源とする御殿谷川と合流する。



大沢川に架かる三村橋

大沢川は、川町の都営八王子霊園西南部を水源とし、東北に流れ、武分方町を経て、横川町で城山川に注ぐ約三kmの川である。「皇国地誌」には別名、川村川、柳沢川とも呼ばれると記されている。そして城山川は、横山町の横山住宅北側を流れる北浅川へと合流する。



左 城山川 右 北浅川

⑩メタセコイヤの

化石林

昭和四十二年（一九六七）一月、横川住宅北の南北浅川合流地点のやや上流から五百mに渡る流域で、三十株ほどのメタセコイヤの化石林が河床に埋もれたまま発見された。

スギ科の落葉針葉樹林で約百七十万年から五百万年前に形成された、新生代第三紀の地層の中に発見されている。

河原の礫が流されたあとに基盤の



城山川

地層が露出し、約百五十万年から二百万年の大矢部火山灰層にあたる砂質泥岩の中に化石林となっていたもの。太さが直径二m以上に及ぶものもあつた。更に今後の発掘調査では、立木もあると推定されている。

地形的には、関東平野が出来る前の、関東山地の裾まで太平洋の海岸であつた頃の地層と推測されている。

またこの河床から約二百三十万年前の象の牙、一・八m左右二本、臼歯、肋骨など多数の骨類が発見された。この化石は、大型のミエゾウと小型のアケボノゾウの中間の大きさであつた。平成二十二年（二〇一〇）五月「ハチオウジゾウ」と名付けられた。その他、八王子の小比企町の湯殿川、日の出町、五日市町や昭島市の多摩川でも発見されている。



八王子象の象牙



メタセコイヤの化石林（北浅川）



メタセコイヤの化石林
(城山川と北浅川の合流地点)

⑪横川弁天池公園

横川橋公園の南側に横川弁天池公園がある。以前は鬱蒼とした中に泉が湧き出た自然豊かな池だった。明治三十三年（一九〇〇）発掘調査が行われ、縄文時代後期の住居跡、土器、土偶、石器等多数出土している。また、昭和五十四年（一九七九）には、横川小学校南東周辺の発掘調査が行われた。ここからも古墳時代と奈良時代の堅穴住宅跡や墓、土器、瓶等が出土している。

古墳時代後期の集落としては、中田遺跡（中野町）、船田遺跡（長房町）に並ぶ大集落であつたのではないかと考えられている。今は、弁天池周辺が整備され、憩いの場所となっている。



横川弁天池公園

よこがわうめこ

●横川 榎子 生家

(南多摩高校創立者)

横川町四七一

横川家は代々村の名主を勤め、明治に入ってから、神奈川県南多摩郡第九大区の副区長を勤めるなど、地方の有力者でもあり、教育にも関心が強く、当時の学区取り締まりに任命されて、教育にも功績を残した名家である。

横川榎子は嘉永六年（一八五三）一月多摩郡横川村の名主の家に長女として生まれ、当時封建制度が強く個人の権利や自由を認めない時代。八王子でも女子は殆んど機織女に従事させられていた。

教育などには見向きもしない世の中に、榎子は女子教育の先覚者として私立八王子女学校を開設し、八王子付近の女子教育に活躍した。しかし、しばしば経営難にあい、私財を処分しながら維持続けた。

明治四十一年（一九〇八）府立第

四高等女学校（現在の都立南多摩高等学校）の開設に際しては、すべてを東京府に寄付して女子教育に幕を下ろした。

生涯を女子教育に貢献した横川榎子は、大正十五年（一九二六）一月三日、七十三歳の生涯をとじた。昭和十一年三月、教え子らが横川榎子の偉勲を称え、南多摩高等学校の校庭に胸像をつくった。



横川榎子生家

⑫ 桃源山 龍泉寺

長房町一六

宗派 浄土宗

本尊 阿弥陀如来

寺宝 聖観音菩薩像・馬鳴菩薩像

開山 方誉来給上人

開基 北条氏照

開創 永禄元年（一五五八）

寛保二年（一七四二）本堂再建、

千人同心の香華寺（祈願寺）として隆盛を極めた。江戸期以来境内に観音堂があり、八王子八景の「水先観音」として知られていたが、明治初年堂守が不在となり取り壊し本堂内に安置している。また「ぼっくり寺」としても知られる。この寺に参詣すると安穩のうちに極楽浄土に行けるという言い伝えがあり、近隣・近県からの参詣者がある。また八王子三十三観音札所の一つとなっている。墓地には安政から文久の頃活躍した川柳の「野沢笑溪」の墓がある。

境内奥には宝暦十三年（一七六三）

の銘がある如意輪観音があり、又、応仁から文明年間（一四六九～一四八六）の室町時代の板碑がある。



ぼっくり観音



龍泉寺



野沢笑溪の墓



ご詠歌石碑



阿弥陀如来坐像

⑬ 一乗山吉祥院久松寺

長房町五八―三

宗派 真言宗知山派

本尊 大日如来(金剛界)

開山 賢盛上人

開基 源頼房(頼源法印)

開創 応永年間

(一三九四―一四二七)

中興 宝樹房(坊) 行盛法印

八王子市日吉町にあったが、享保

十五年(二七三〇)、明治二十二年(一

八八九)の火災と昭和二十年(一九

四五)八月の八王子空襲により焼失、

昭和三十年(一九五五)現在地(長房

町)に移転。吉祥院は明治二年に廃寺

になった東福院久保寺と合併してい

る。また戦前から二十三夜祭で知ら

れている。正月の七福神では吉祥天

を加えて八福神としている。尚、墓

地には千人同心、石川家の墓があり、

境内には呆無観音二十三堂、三面六

臂地藏、弘法大師像などがある。



千人同心石川家の墓



吉祥天像



吉祥院入口



高尾山飯綱大権現遙拝所



弘法大師像

◎参考資料

- ・城東俚談 村田光彦著
- ・多摩の歩み 香川 説著
- ・元八王子歴史研究
- ・新編武蔵風土記稿
- ・武蔵名勝図絵
- ・皇国地誌
- ・武蔵野歴史地図
- ・長野県諏訪市富士見町史
- ・由比野第四号
- ・八王子市史（下）
- ・八王子寺院めぐり
- ・植物で見る万葉の世界
- ・多摩の代官
- ・元八王子の歴史散歩資料 小山祐三著
- ・インターネット各ページ
- ・昭文社
- ・八王子市地図
- ・八王子市観光マップ
- ・八王子市郷土資料館資料

メモー